

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで子どもが多い時は、グループ分けをし、運動量が確保できるように工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	加配加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。当事業所は指導員4名がすべて常勤のため、体制は整っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	子どもたちにわかりやすいよう、道具の配置に努めており、必要に応じ物の配置を掲示したりしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	毎日清掃・消毒を実施し、力を入れている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	今後参考にしていきながら、改善に繋げる。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPIに公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	随時研修に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	フェイスシートなどを参照に日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。	これからも保護者様・子供達の笑顔の為に創意工夫していきます。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	発達支援に重点を置き、中でも自立支援・運動・創作・感覚統合・他者への関わりを目的とした個別療育、集団療育を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	随時ミーティングにて確認しあっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	毎日ミーティング時に複数の職員で話し合いながら、児童の特性に配慮したプログラムを作成している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	利用者の課題やご希望等も取り入れ、ミーティングにて新しいプログラムなどの立案等を行っている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	契約時に適性を見極め、その後の子どもの成長度合いに応じ、クラス変更がメリットとなった場合は、児童・保護者様を含め、全員で検討している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	各職員で役割分担をしている。支援の内容は毎日朝礼時に指導員全員でミーティングをして打ち合わせを行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出し、次の支援につなげている。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日、利用者ごとにその日の支援に関して記録している。検討事案次第では次回までに検証、改善を行い、個別支援計画作成に反映させている。		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的(6ヶ月ごと)に保護者と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	基本的には児発管が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		直接の連携は行っていないが、保護者からの要望に応じる形で、情報の共有など連携できる体制は整えている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で詳しく説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	定期的(6ヶ月ごと)に保護者の方と面談を行い、支援計画の説明と同意を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		必要に応じての面談等は実施できていると思うが、もっと機会を増やせていければと思う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		今後必要に応じて検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	未熟ながらも、速やかに対応するように心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報は発行していないが、必要に応じてお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料はシュレッダーを掛け、カギ付き書庫の中に保管している。PC等からの個人情報へのアクセスについても、セキュリティソフトを導入して対応している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在は行っていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	緊急時対応マニュアルと感染症マニュアル作成し、定期的に事業所内で研修等を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	ご利用の契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただいている。毎日のミーティングにおいて職員間で情報共有をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	フェイスシートにてアレルギーの有無は確認しているが、食物の提供は行っていない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で映像を見返して共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	定期的に事業所内で虐待防止の研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	身体拘束同意書を用いて説明、同意をいただき、個別支援計画に記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	6	0	0	1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	0	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	7	0	0	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	1	0	0		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7	0	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	7	0	0	0		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	1	3	2		
保護者 への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6	1	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	6	1	0	0		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	1	1	3	2		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	7	0	0	0	家庭や園での様子等を伝えて理解してくれていると思う。	もっとコミュニケーションを深めていきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	3	0	0	必要に応じて面談してくれている。	今後とも面談などでお話を十分にさせていただき、ご要望にそえるように努めてまいります。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	0	4	3	他の保護者さんとの関わりはない。	今後、必要に応じて検討いたします。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	4	2	0	1		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7	0	0	0		
18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	1	0	1			

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	6	0	0	1		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	3	1	0	3		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	1	0	2		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	7	0	0	0		
	23	事業所の支援に満足しているか	7	0	0	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで子どもが多い時は、グループ分けをし、運動量が確保できるように工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	加配加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。当事業所は指導員4名がすべて常勤のため、体制は整っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、バリアフリー化の配慮を行っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	今後参考にしていきながら、改善に繋げる。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	随時研修に参加している。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	フェイスシートなどを参照に日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	ミーティング等でどのようなプログラムを行うか話し合いをしている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	指導員間で話し合い、工夫しながら進めている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	指導員間で話し合い、工夫しながら進めている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	契約時に適性を見極め、その後の子どもの成長度合いに応じ、クラス変更がメリットとなった場合は、児童・保護者様を含め、全員で検討している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず打ち合わせの時間を確保し、児童の課題に応じた支援方法や役割分担を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ずミーティングの時間を確保し、気づいた点や改善点を洗い出して話し合い、その内容も記録に残している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録にも記入し、検証している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的(6ヶ月ごと)に保護者の方と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	子ども一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数合わせて行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	基本的には児発管が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		現在機会がないが、今後必要に応じて検討していきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回、指導員や児発管が声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングし回答するように心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		もっと判りやすい説明ができないか、日々思索中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		会報は発行していないが、必要に応じてお知らせしている。
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料はシュレッダーを掛け、カギ付き書庫の中に保管している。PC等からの個人情報へのアクセスについても、セキュリティソフトを導入して対応している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	まだまだ未熟ではあるが、一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じて検討していく予定。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	緊急時対応マニュアルと感染症マニュアル作成し、定期的に事業所内で研修等を実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	定期的に研修機会を設け実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	身体拘束同意書を用いて説明、同意を承諾していただいており、個別支援計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギーの確認は実施しているが、食事提供がない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で映像での振り返りなどで共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

2023年度

事業所名 TAKUMI天王寺教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	0	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	12	0	0	2		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	0	0	5		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	14	0	0	0		
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	13	0	0	1		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	0	2	10		
保護者への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	0	0	0	毎回活動内容を報告 してくれています	ありがとうございます。 引き続きご満足 いただけるよう、努力 してまいります。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	14	0	0	0		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	0	0	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	1	1	9		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	0	6		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	0	0	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	12	0	0	2		
	14	個人情報に十分注意しているか	13	0	0	1		
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13	0	0	1		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	11	0	0	3		
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	14	0	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	14	0	0	0		

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。